

科目名称：	工業簿記演習	
担当者名：	西田 敬志	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
<p>日本はものづくりの国と言われるますが、製造業の国内総生産に占める割合はサービス業に次ぐ第2位であり、日本経済を支える大きな産業となっており、この分野において適正な利益を計算するためには、正確な原価計算が求められています。しかしながら、製造業では、仕入れた材料をそのまま売るわけではなく、切る、組み立てるなどの加工をして製品を作るため、正確な原価を計算することが難しくなっています。そこで、この授業では正確な原価を計算するために、工業簿記の知識を学び、ビジネス社会で活かすことのできる知識をえることを目的とします。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
日本商工会議所の簿記検定試験 2級の工業簿記分野の修得を目標とします。		

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、ビジネス社会で求められる基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	医療事務や観光業を含むビジネスの専門知識や技能を身につけ、各種資格を取得し、ビジネスワーカーとして他者と協調・協働することのできる実践力を身につけている。	○
DP(3)	多様なビジネス社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、ゼミナールを通して、ビジネス現場における様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力を身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)	60	40			100
ビジネスDP(3)					0
ビジネスDP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 税理士 * 税理士事務所	《経験年数1》 5年8か月 * 16年3か月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 工業簿記の基礎	全角34文字以内	40分
第2回 材料費	ミニテストを解く	30分
第3回 労務費	ミニテストを解く	30分
第4回 雑費	ミニテストを解く	30分
第5回 個別原価計算	ミニテストを解く	30分
第6回 部門別個別原価計算	ミニテストを解く	30分
第7回 総合原価計算①	ミニテストを解く	30分
第8回 総合原価計算②	ミニテストを解く	30分
第9回 総合原価計算③	ミニテストを解く	30分
第10回 総合原価計算(授業内でディスカッションをしながら演習を進める)	ミニテストを解く	30分
第11回 工業簿記における財務諸表	ミニテストを解く	30分
第12回 本社工場会計	ミニテストを解く	30分
第13回 標準原価計算	ミニテストを解く	30分
第14回 直接原価計算	ミニテストを解く	30分
第15回 まとめ	ミニテストを解く	30分
<p>事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(ミニテスト)をまとめることになる。</p>		
成績評価の方法・基準 定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 小テスト3回 40%		
課題に対するフィードバック 授業内プリントは評価して返却する		
教科書・参考書 教科書：スッキリわかる日商簿記2級工業簿記第8版(TAK出版)		